

今回のかやぶんかわら版では、63号・64号に引き続き、北杜市内の民俗行事についてご報告します。今回は、「白州町下教来石の獅子舞と道祖神祭り」です。（内海）

獅子舞

北杜市白州町の^{しもきょうらいし}下教来石では、小正月（かつては1月14日。現在は成人の日）に獅子舞と道祖神祭りが行われます。獅子舞は、下教来石各戸（約100戸）で2つずつ舞を舞うため、長時間かかります。下教来石獅子舞道祖神祭り保存会の集合時間は午前3時半。午前3時から地区中を回る起こし太鼓の音を合図に、暗い中、保存会の皆さんが公民館に集まってきます。公民館で式典をし、午前4時には獅子舞が出発します。最初に諏訪神社に行き、神社と道祖神社で舞を奉納します。その後、^{らいふくじ}来福寺、地区の^{しも}下（南端）の橋にて舞を舞います（写真1）。昔、下教来石の獅子舞には牡獅子と牝獅子があり、祭りでは、地区の^{かみ}上から牝獅子が、下から牡獅子が舞を舞っていき、双方が出会った所で舞い納めをしていたといいますが、^{えきびょう}疫病が流行した際、上の^{かみきょうらいし}境（上教来石地区との境）に牝獅子を、下の^{とりはら}境（鳥原地区との境）に牡獅子を置いて、疫病の侵入を防いだそうですが、^{ぼら}沢が氾濫して牡獅子は流出してしまい、それ以後は牝獅子のみで舞うようになったそうです。そのため、現在、下教来石に伝わる獅子舞は牝獅子です。舞には、本舞である「幕の内」（写真2）と、^{おじしめじし}悪魔祓いの「剣の舞」（写真3）があります。獅子は、和服に黒足袋を身に付け、水玉模様^{めいよう}に亀を染め抜いた幕のついた獅子頭を頂きます。「幕の内」では幕を広げて舞い、「剣の舞」では右手に三尺の剣・左手に古銭の鈴を持って舞います（写真4）。保存会の会員は「松」と「竹」のグループに分かれていて、家々を回る際は交互に担当し、交替で休憩をとります。午後4時半頃に家々で舞う獅子舞が終わり、最後に地区の上（北端）の橋・諏訪神社・道祖神社にて舞を奉納して、今年度の獅子舞奉納が終了しました。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真1



写真2



写真3



写真4

道祖神祭り

獅子舞終了後、保存会会員は一旦解散して、着物姿から、道祖神祭り用の動きやすい服装に着替え、公民館に再集合します。その後、神社に集合し、午後7時より道祖神祭りの式典が始まりました。式典後、保存会会員から選ばれた^{とうどり}頭取・^{ふくとうどり}副頭取の内4名が、神主さんより道祖神のご神体を受け取ります。頭取達は道祖神社の前に^た焚かれた火の上を走り、境内を駆け抜け（写真1）、境内を出た所で、他の頭取・副頭取・保存会会員達に囲まれます。そして、全員が身を寄せ、押し合いながら進む「お練り」が始まります（写真2）。その中から、一組の頭取・副頭取が本物の^{しんたい}ご神体を持って抜け出し、区の役員及び結婚や出産などの慶事があつた家々を回ります。家々では、頭取が神棚にご神体を置き、お祈りをし、その後、ご神体にお神酒を捧げて、最後に家族全員がご神体で頭を撫でてもらいます。頭取達は土足で家へ上がり、家から家は全速力で駆け抜けます。最後の家が終わり、ご神体を持つ頭取・副頭取の組とお練りが合流し、午後8時半頃、道祖神社に戻ってきます。鳥居の下で頭取・副頭取の内4名がご神体を捧げ持ち、その下を地区の人々が通って境内に入っていきます（写真3）。出て行く時と同様、頭取達は焚かれた火の上を走り、神主さんにご神体を戻し、その後、神主さんはご神体で地区の人の頭を撫でていきます（写真4）。最後に道祖神社にて式典を行い、道祖神祭りが終了します。

獅子舞も道祖神祭りも、周辺では類を見ない規模の大きなものでした。保存会の皆さんをはじめとした、地区の皆さんの祭りに対する熱い想いと、本行事が地区にきちんと根付いているということ、強く感じる行事でした。

こども神楽教室ニュース

かやぶんかわら版67号に引き続き、かやぶんの会員であり、小学3年生の時から「こども神楽教室」に参加している堀内涼汰くん(中学1年生)の作文を掲載します。(読売新聞社「第60回全国小・中学校作文コンクール」山梨県審査会 優秀賞)

「お神楽から知り得たこと」②

二年前、お神楽の縁があって伊勢神宮に参拝しに行く機会を得ました。豊受大神をまつた外宮、天照大神をまつた内宮は、木々に囲まれてうっそうとしていて、この世ではないかのように思えました。しき地や建物の大きさ、お神楽も、普通の神社とは全くと言っていいほど違い、平安時代にタイムスリップしたような気分になりました。

内宮で、神社の方からお話をうかがう事ができました。そのお話の中で、特に驚いた事がありました。それは、神様への食事です。食事は、火起こしから人の手で行われます。ガスコンロなどは使わず、木と木をこすり合わせて出た摩さつ熱を利用して火を起こします。食材も、神様のための特別なものを使用します。こうして手間ひまかけてつくられた食事は、毎日二食、千五百年間の間一日も休むことなく神様に供えられています。これも、神様に元気になってもらって、日本を平和にしていってほしいという願いからだそうです。私は、自分の知らない所で、自分たち国民や日本の平和の為にコツコツと働く神職の方がいてくださることに感動しました。

そして、千三百年前より伊勢神宮では二十年に一度、式年遷宮が行われます。式年遷宮は、内宮と外宮の全ての建物を建て替えます。もったいないと思う人もいるかもしれませんが、式年遷宮の技術と精神を次の世代に確実に伝える為に二十年ずつ行われるそうです。

伊勢神宮への参拝は、多くの事を知り、とても心に残りました。



現在の外宮

遷宮が予定されている敷地

奥村真名美さん提供



堀内涼汰さん提供

=ドキドキ! まいぶんシリーズ=

2011年 2月の予定～

★おばあちゃんの知恵袋

節分だ! サツマイモで鬼まんじゅうを作ろう!
日にち: 2月3日(木) 午後5時～7時

★埋文のお仕事体験!

縄文土器のふしぎな模様を写し取ってみよう!
縄文コースターのプレゼントもあるよ♪
日にち: 2月7日(月) 午後5時～7時

★綿からフチ織物を作ろう!

「みんなの畑」でとれた綿を使って、糸つむぎと織りに挑戦しよう! オリジナルのフチ織物を作るよ☆
日にち: 2月15日(火) 午後5時～7時

★囲碁に挑戦!

楽しみながら囲碁のルールを覚えよう☆
はじめてのお友達でもだいじょうぶ!
日にち: 2月23日(水) 午後5時～7時

ドキドキ! 埋文シリーズで、いろんな体験を楽しもう♪ 参加者申し込み受付中です!
お問い合わせは茅ヶ岳歴史文化研究所まで。

=ご寄付=

小林 光男 様 誠にありがとうございました。

=会員募集=

茅ヶ岳歴史文化研究所では、私たちと一緒に活動して下さる方、ご賛同いただける方を募集しています。

こんなことをやってみたい人は、ぜひ!

- 歴史や文化財の研究を通じて知識を深めたい
- 活動を通じて文化財保護や活用に役立ちたい
- イベントを通じてさまざまな人と交流したい

入会金: 1000円 年会費: 1000円

=編集後記=

新たな年を迎え、小正月には明野町内のあちこちできれいなおやなぎさんを目にしました。おやなぎさんの他にも、北杜市内の各地ではいろいろな小正月行事が行われています。今号で紹介した獅子舞と道祖神祭りもその一つ。学芸員がなんと夜中の3時! から頑張って取材をしてきました。地区の皆さんにもお世話になりました。

まだまだ寒い日が続く、インフルエンザも流行っているようです。皆様どうぞ気をつけてお過ごし下さい。

かやぶんかわら版 第68号

平成23年1月31日発行

特定非営利活動法人 茅ヶ岳歴史文化研究所(かやぶん)

〒408-0204 北杜市明野町上手8310
明野歴史民俗資料館内

TEL/FAX 0551-25-2019

ウェブサイト <http://www.kaya-net.jp>

E-mailアドレス info@kaya-net.jp